

Lend a Hand  
手を貸そう国際ロータリー第2750地区多摩東グループ  
東京多摩グリーンロータリー・クラブ

## Weekly Report



クラブ会長テーマ 手を貸そう! そして強く握ろう!

2003-12-17 第634回例会 NO.14-23 2003-12-24 発行

◎司会 SAA委員会 根本 泰守

◎点鐘 会長 大松 誠二

◎ロータリーソング「四つのテスト」  
ソングリーダー 菊池 敏◎お客様紹介 会長 大松 誠二  
なし

◎会務報告 会長 大松 誠二

12月10日に行なわれた第10回定例理事会の協議事項をご報告します。

- ・クリスマス例会の内容・予算について  
お客様が増えましたので予算を増額修正しました。大勢で楽しいクリスマス例会を親睦活動委員会にお願いしました。
- ・菅井信夫会員の出席免除について  
12/1～12/31の期間、クラブ細則第8条により出席義務規定免除を承認しました。
- ・3クラブ合同寿例会について  
2004年1月6日(火)、当京王プラザホテル多摩で恒例の3クラブ合同寿例会を開催します。会費は4,000円で、定例例会が振替えになりますのでご了承下さい。

◎幹事報告 幹事 藤本 吉文

- ・来年1月～2月の予定表を配布  
1/7の定例例会は振替えて1/6(火)の3RC合同寿例会(場所:京王プラザホテル多摩白鳳の間)
- ・2/11は定款による休会、2/18は3週目ですが夜間例会です。お間違いないように。
- ・3クラブ合同チャリティゴルフコンペの寄付金の額が

決まりました。当クラブは22万円です。来週のクリスマス例会で「多摩市手をつなぐ親の会」知的障害者支援組織の代表にお贈りします。

- ・国際大会(関西)への当クラブからの参加は19名です。以降の登録は2次募集になりますが、追加の参加をお待ちしております。
- ・「ロータリーの友」インターネット速報が届きましたので回覧します。

【委員会報告】

◎出席報告 出席委員会 小林 正

- ・会員総数 44名
- ・出席義務者数 43名(出席免除者4名)
- ・出席者数 35名
- ・欠席者数 8名(事前MU0名)
- ・出席率 81.40%
- ・欠席者:藤原 正範、平野 行廣、小泉 博、佐伯 和廣、菅井 信夫、高木 淳光、高野 範城、由井 眞司
- ・補填MU:なし

12/3 最終訂正出席率 72.09%

◎ニコニコBOX 親睦活動委員会 北村 幸彦

- 大松 誠二 内田会員スピーチを楽しみにしています。来週はもう最終例会でクリスマスですね。
- 藤本 吉文 ロータリー100周年も近く、ライト兄弟の初飛行も100周年。時代がわかりますね。
- 赤尾 恭雄 早いもので、今年も年次総会の時期が来ま

東京多摩グリーンロータリー・クラブ事務局  
東京都多摩市落合1-43 京王プラザホテル多摩561号  
TEL 042(372)6463 FAX 042(372)6491  
E-mail tamagr@cello.ocn.ne.jp【例会場】京王プラザホテル多摩・たまつばき4階  
【例会日】●毎週水曜日12:30 ●月の最終例会18:30  
【会長】大松誠二 【幹事】藤本吉文  
【クラブ会報委員長】赤尾恭雄 【副委員長】正房正孝  
【委員】遠藤二郎・平野行廣・佐伯和廣・澄川昇・高木淳光・由井眞司・小田泰機

したが、年々早くなる思いです。内田さん、卓話を楽しみにしています。

伊澤ケイ子 小坂さん、クリスマス例会のビンゴゲーム賞品沢山ありがとうございます。皆様もご協力お願いします。

萩生田政由 内田様、スピーチを楽しみにしています。

津守 弘範 内田さん、イニシエーションスピーチ楽しみにしております。

加藤喜三郎 内田さん、イニシエーションスピーチ楽しみにしております。

伊藤 英也 内田さんのイニシエーションスピーチ楽しみにしております。

内田 杏 本日のイニシエーションスピーチ、心配です。

杉野志保子 二週続けてお休みしてしまい、すみません。

北村 幸彦 来週はクリスマス例会ですね。大勢の参加をお願いします。

**本日の合計¥18,000 (累計¥467,357)**

**◎新世代委員会** 委員長 宮村 宏  
ガバナー事務所より次の点についてアンケート調査が来ておりますのでお尋ねします。

- ・学校評議員になられている方は居られますか。
- ・中高生、小学生の職場体験を経験された方は居られますか。

**◎ロータリー情報委員会** 委員長 小坂 一郎  
本年度新会員セミナーについてお知らせします。入会3年未満の新会員の方々が対象で、申込み締切りが来年1月15日となっています。対象者の方には別途個別にお誘いし、全員が参加するようにしたいと思っています。私も一緒に参加いたします。開催日時は2月12日(木)12時30分開会となっていますので予定して置いて下さい。登録料は本会議2,000円、懇親会を含めて9,000円です。

**◎国際奉仕委員会** 委員長 吉沢 洋景  
国際大会に多数の申込みをいただき有難うございます。クラブ経由の申込みは12月15日で締切りしましたが、以後、各自個別に大会当日まで登録可能です。もし、今後、参加が予定できれば登録をよろしくお願いします。

**◎プログラム委員会** 委員長 足立潤三郎  
1月21日及び2月4日の例会において、NHK大河ドラマでも取り上げられる新撰組に関する資料館を運営さ

れている町田サルビアRC会員小島政孝様の前編後編2回の卓話を予定しております。その他、1月及び2月の卓話予定は決まっておりますが、3月から6月まで都合9回の卓話時間がありますので、各委員会のご希望があればよろしくお申出をお願いします。

**◎米山奨学委員会** 委員長 小城 章員  
特別寄付に大変ご協力いただき有難うございました。12月30日までの寄付者に対しては今年の免税措置がありますので更にご協力をお願いします。今年は約80%の会員からご協力をいただき、米山奨学事業への関心を深めていただく当初の目標は達成されたものと思います。今後ともよろしくをお願いします。

**年次総会**

議長 会長 大松 誠二

本日の出席率72%で総会の定足数に達していますので、クラブ細則第1条第1節及び第4条第1節による次年度役員及び理事の選任をお諮りします。

本年11月11日に指名委員会(委員長 遠藤二郎 会員)より答申のあった方々は以下の通りです。(次年度会長 菊池 敏 会員を除く)

会長エレクト	北村 幸彦 会員
副会長	小林 和夫 会員
幹事	田島真由美 会員
会計	高木 淳光 会員
理事	杉田 誠 会員
理事	澄川 昇 会員
理事	萩生田政由 会員
理事	檜垣 昭 会員
理事	阿部 華歌 会員

以上9名  
ご承認は拍手をもってお願いいたします。  
(拍手をもって議案承認、年次総会終了)





## ◎卓 話

## 「イニシエーション・スピーチ」 内田 吾

古い素朴で鄙びた村落から急速に変貌した人工的な都市多摩への変貌を体感した半生を語る。今はゴルフが唯一の楽しみと言うが、ゴルフ場通いが通算 2,000 回とは正に趣味の域を越えて驚き！



## ◎点鐘

## 会長 大松 誠二

(例会担当：赤尾 恭雄)

## ポール・ハリスを我々の心に！ Part 18

6月の始めに、待ちに待った終業式がやってきた。学校中が、赤、白、ピンク等の豪華な芍薬の花の匂いで一杯だった。女の子は新しい夏の晴れ着を着、男の子は正装に身を固めてそわそわしていた。終業式には生徒達がスピーチをすることになっていた。彼等は前もって家で夜の時間を利用して文章を暗記したが、スピーチをするときに舞台負けてへまをやるのが心配だった。終業式の当日は、順番に名前を呼ばれるのを胸をどきどきさせながら待っているのは気が気ではなかった。びくびくしながら待っている生徒の名前がガ呼ばれ、演壇に上がり、正々堂々と上手にスピーチして自分の席に戻ってきたり、声も上ずり、へまをしたり、様々な光景が展開された。最後にポールの名が呼ばれ、吟唱「ポーランドの少年」を熱演した。かすかに「ポーランドの少年」、「舞台負け」と「私」が噛み合っているな、と彼は思ったが特に自信はなかった。締め括りの言葉が満員の教室に響き渡ると、拍手喝采をあとにポールは自分の席に戻った。何とか無事に終わった安堵感で胸は一杯だった。また1年後、再び終業式が廻ってくるまでの解放感だった。

先生が閉会の辞とともに合図の鐘を鳴らした。ポールは直ぐに父母や兄弟姉妹がひしめく間を掻き分け、芍薬のむせぶ匂いを避けて外へ出ると、綺麗な空気を一息吸って待ちに待っていた水泳のため川へと急いだ。

ところが、祖父もポールの休暇を待っていた。或る日のこと、ポールを納屋へ誘った。手押車に座った祖父は、ポールがブランコに腰掛けると話し出した。

「ポール、お前の将来のことについて相談したいんだよ。これは私にとって大事なことなんだ。実は、私はお前とうまくやっているのかと、時々考えてみているんだよ。私の考えでは、成長期の少年は日課を持たなければいけない。仕事を教えてもらえる子供は、遊ぶ以外に芸のない子供に比べると遙かに恵まれている。ポール、お前は朝から晩まで駆け回っているだけだ。我が家では、今私がやっていること以外に大した仕事はないので、お前には休暇中は毎日少しずつ勉強をして貰いたいんだよ。しかも、始めるなら今が一番良い時なんだ。」

祖父はポケットから古びて黄色くなった単語帳を取り出すと、「おじいさんが単語を言うから、その綴りを言いなさい。」とポールに命じた。この訓練は夏休み中に何度か繰り返し行なわれた。

(コーナー担当：赤尾 恭雄)

## ポール・ハリスを我々の心に！ Part 19

ポールの好きなチャイルド川の水源は、ホワイト・ロックスの麓の丘に湧いている泉だったが、泉の周囲には大きな漂石があったり木が茂っていて、夏でも太陽の光線を遮っていたので、泉の周りは一年中凍っていた。そこで「氷の床」と呼ばれていた。そこから半マイル(800メートル)ばかり離れたチャイルド川の氷のように冷たい水の中で鱒が釣れた。林の中の下草の中を忍び歩いたり、牧草地では小川の淵沿いに生えている背の高い草む



らを掻き分けたりして、魚の居そうな場所を探し、釣針に餌をつけて投げ入れた。時には釣れなくてガッカリすることもあった。自分では体を隠したつもりで居ても、臆病な鱒には見付けられているのだった。それが証拠に、上手か下手でさっと水しぶきが上がって水が少し濁る。それは逃げた鱒が触覚の働きをしている腹びれで川底をかき回すからなのだった。

それにも懲りず、腹を空かしている鱒が、同じ巣から次から次へと餌に群がってきた。そして最後には断末魔の抵抗も空しく針に掛かるので、正にスリル満点だった。

ポールも成長するにつれて、釣りの腕も上がったが、エド・セービンや義足のプラットにはとてもかなわなかった。二人とも、人が釣れないという川でも鱒を釣り、まだ釣り尽くした川はなかった。彼等は釣りに出掛けるときはお互いに別行動をとっていた。

ポールは釣りには午後出掛けた。そして一人で楽しみ、疲れるようなことがあっても、村に帰る頃は気分が爽快になった。村で病人が出ると、釣った鱒を分けてあげた。祖母がカリカリに揚げた鱒を真白いナプキンに包み、それを得意になって届けるのはポールの役目だった。

祖母は多くの人に施しをしましたが、いつも届けるのはポールだった。祖母に頼まれてバスケットや手桶にご馳走を入れて何度も病人や困っている人に届けに行った。

その中には二人の老姉妹がいたが、その中の一人は盲目だった。二人とも不幸な身の上でしたが、落ち着き払っていて、祖母の贈り物を渡すと、いつもニコニコして祖母によろしく伝えて欲しいと言った。

(コーナー担当：赤尾 恭雄)

### 「ロータリー知識」 入門編 ロータリーについて3 (私の考察Ⅱ)

前回、多摩グリーンRC定款第4条の前文に従えば、ロータリーは、「有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成することを目的(目標、主義)とする組織(クラブ)」であると述べました。それでは、「有益な事業の基礎としての奉仕の理想」とは何でしょうか。ロータリーの歴史をたどると、元来、ロータリーには「奉仕」という考えはなかったということです。初期のロータリーは、会員間の親睦と相互利益(この利益というのは、会員の事業経営上の利益、つまり金銭的利益ないし物質的利益を意味します。)を目的とした一種の社交クラブ(互助クラブ)であったようです。しかし、この会員だけが利益を享受できるシステムに対するクラブ外の者からの反発もあり、また、このようなシステムだけではロータリーという組織を広げるには限界がありますので、そこに「奉仕」という考え方(理念あるいは哲学といっているのかも知れません。)が導入される契機が生じたようです。この導入について、主導的な役割を果たしたのが、1908年にシカゴ・クラブに入会したアーサー・フレデリック・シェルドンだと伝えられています。彼はロータリーの歴史にあって、創始者のポール・ハリスらと並んで重要な人物とされています。彼は、事業経営に成功した後、一種のビジネススクールを開設し、その経験に基づいた経営学を教えていました。その経営学の根底にあったのが「奉仕(Service)」という考え方でした。次は、このシェルドンの考え方について調べることにします。

(コーナー担当：小田 泰機)